

学校評議員の会報告書

※該当箇所に○または掲載予定日をご記入ください

ホームページへの掲載	
○	3月15日 掲載予定

岐阜県立可児工業高等学校

学校長 佐藤 芳満

学校住所 可児市中恵土2358-1 電話0574-62-1185

1 会議の名称 学校評議員による会議（第3回）

2 会議の構成 委員 石原 好弘 可児工業高等学校同窓会監査
〔石原・大島設計事務所代表〕
加藤 皓 可児市中恵土自治会連合会長
佐藤 千枝 可児市青少年育成推進員
玉田 吉孝 リンナイ精機取締役
水野 妙子 多治見法人会可児支部女性部会長

（委員名は五十音順）

学校側 佐藤 芳満 校長
渡部 邦夫 教頭
長谷川清志 教頭
小森 敏男 事務長
古田 哲 教務主任
兼松 竹司 生徒指導主事
川合 正郎 進路指導主事
大山 好武 工業科主任

3 会議の目的 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、もって本校教育の一層の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成20年2月22日（金） 10:00～12:00
於：可児工業高等学校 校長室

委員 5 人、学校側 8 人が出席

- 1 会議の概要 全員の方に出席いただき、最後の会を行った。今年度の取組と反省について担当者より説明し、感想とご意見をいただき、また、まとめとして本校職員や生徒に望むこと、外部評価の感想等来年度へ向けての提言していただいた。

(1) 本年度の取組と反省について (外部評価の説明から)

「学校経営について」

- 意見 1 能力と経営という観点で言いますと、何かをやろうとする気持ちがあるかないか、確かに言うことを素直に聴く生徒も大事だが、チャレンジ精神とかリーダーシップの育成という面に重点を置く必要があるのではないか、チャレンジしてくれる人、興味を持っている人にチャンスを与える事が企業として大事である。
- 意見 2 生徒の挨拶が大変気持ちがいい、元気で明るくよく指導されていると思いました。今後も続けていただきたい、全員が同じ方向に向いていることはとても大事であると思います。
- 企業でも同じ事がいえます。企業でも方針を決めて、全員で取り組む事の重要性は同じです。今後も是非期待しています。

「地域連携について」

- 意見 3 個人的に生徒さんを見ているわけではないが、青少年育成推進委員での意見を集約してみると、
- ①挨拶と生徒さんの明るさに好感が持てる。
 - ② MS リーダーや清掃活動などで地域に貢献している。
 - ③交通マナーにもう少し気をつけてほしい、夜間の無灯火が気になります
 - ④新聞などの評価がよい、(楽しく授業を受けている・3年生の研究発表など)
 - ⑤自分の子供のような気がしてきます。(ここ数年大変よくなっていると思います)
- 学校側 外部より交通ルールの苦言をいただきますので、指導の重要性を感じます。
- 運転者側の視点で考えられるように、運転者の責任になるという観点でルールを考えさせる必要があると思います。
- 意見 4 地域との関わりで関係を持ってきたが、大変難しいと思いました。
- 青少年育成という立場であったが切実感がないというのをつくづく感じました。地域を預かる者として、どれだけ役割をはたせたか疑問である。もう少しいいアイデアをもちたかった。

「学習指導について」

- 意見 4 自分の仕事の関係から感じているのは、本当にこの仕事を好きでやっていると言う人が少ないと感じている。
- あえて火中の栗を拾う人材が少ない、先頭に立って進んでいく生徒の育成、リーダーシップの積極的な取り組みが必要ではないか、あらゆる教科で指導することが可能であ

ると思います。

意見 5 スローガンがあればよいと思っていましたが、正門にとっても立派なスローガンがあり感動しました。学校の方向性がとても大事であると思いました。

学校側 その気にさせる事が大事、（教育の原点）興味関心、やる気を喚起させていきたいと思っています。

授業の内容も狭い範囲ではなく、様々な広がりを持たせ幅を広げてやらせることにより、意外な能力を引き出す事になる。

意見 6 資格取得や技能検定について充実していると思う。費用は個人もちで大変であるが資格や技能資格を取得して就職することは大切である。資格や検定は企業側へも県から推進の要望がある。会社でも奨励していることもあるので自信をもたせて欲しい。

「進路指導について」

意見 7 今後は大学進学希望の生徒も増えてくると思われるので、その取組を充実させることも大切ではないか。

意見 8 職場見学等、実際に見てくることが一番。わかりやすく自分の中にきっと何かが残るので、こうした取組の提供を今後も進めて欲しい

学校側 進路の条件がよいので、安易な進路決定にならないためにはこうした取り組みが大切になると思います。

「生徒指導について」

意見 9 青少年育成推進委員として「自分を守る力」を育てたいと思っている。挨拶運動の取組は人間関係づくりには欠かせなく、信頼関係の基礎と思う。また、本校のスローガンを掲げ地域との繋がりを強調している指導を今後も継続して欲しい。

意見 10 あいさつ運動やベル席など（始業前の音楽）「一点集中」は良いことである。今後も継続し規律ある生活、規範意識の高揚を目指して欲しい。

(2) 本校職員・生徒に望むこと

意見 1 課題研究の発表に参加して、先生方が一生懸命日頃から生徒と接し指導されていることが良くわかった。

意見 2 可児市の行事に、先生も生徒も積極的に参加されていた姿を見ることができた。可児川清掃でも高校生が活躍していた。環境フェスタでは、生徒が受付を担当してくれて大変好評であった。

意見 3 地域への関わり方はいろいろな方法があると思うが来年もよろしくお願ひしたい。

学校側 学校全体での呼びかけ・部活動としての参加・生徒会活動としての位置づけ・工業部など、各部所で積極的に対応やアイデアを出して今後も参加したい。

意見 4 資格取得へ今後も情熱をもって取り組んでいただきたい。

意見 5 自分は息子と同じ仕事をしているが、自分が変わらないと共に仕事ができない、どれ

だけ年をとっても勉強をする必要があるのでは、教師も新しい勉強をしていく必要がある。生徒をどうしようではなく、教師も年と関係なく変化していく必要があると思います。

(3) 外部評価について

- 意見 1 設問に対して答えようがない部分が多いのではないのでしょうか
- 意見 2 高校生の子育ての問題があるのではないのでしょうか、小・中で終わっていると思われる子育てが高校生にもあるのではないか
- 意見 3 外部評価というより、親の悩みがでていいるのではないか
親の責任で指導しきれないので、学校に何とかしてほしいという点が C・D・E に思いとしてでていいるのではないか
- 意見 4 小学校でも評議員をしています、様々な意見が出ます。しかし基本は家庭であると思います。ご理解をしていただきたい家庭との連携が一番難しいと思います。
学校の話聞く、他の親の話聞くという習慣が少ない、自分のところは自分でやるから人の話を聞く必要がないという考え方が広がっているように見えます。
- 意見 5 そうしたことに対して様々な方法で、学校の思いを伝える必要があるのでは・・・
メルマガや学校通信・学級通信を利用して伝える必要があるのでは
- 学校側 授業料の納入については特に大きな問題はありません
ケイタイの利用については 小学生 4 % 中学生 5 6 % 高校生 9 5 %
使用のマナー・不正請求・被害者から加害者にならないなど指導が必要である

(4) その他について

- 意見 1 可児市、美濃加茂市における外国人の占める比率は日本でも 1～2 番です。
今後受け入れについて研究が必要ではないか
- 学校側 外国人の受け入れについては、県から研究指定をいただき本年研究をして参りました。
そうした先進県である、神奈川県・大阪府等で研修を進めてきました。
可児、美濃加茂は県内でも特殊な地域である、今後この地域の高校の課題である。
現在本校でも中国人が 1 名在学していますが、言葉の問題が一番です。
- 学校側 神戸、横浜の中華街では入学案内等が中国語になっている、サポート制度も確立されている。しかし本校では工業の授業における怪我等の問題がある。普通の生活用語はいいが専門用語がネックになる。
今後、中国・ブラジル・フィリピンなど言葉だけでも大きな壁がある、単に通訳をつけられればよいという問題ではない、学習に対する文化の違いなど問題になるであろう

多文化共生センターでも義務教育までで、高校生は該当しないので・・・

- 学校側 外国人の問題は、過去の部落問題のようにならないかと思えます。
外国人がグループ化してなじめないようになれば、逆戻りすることも懸念します。相互理解が必要である。
- 意見 2 企業サイドとしては重要な労働力になっている。海外の人に頼らざるを得ない、しかし言葉の壁がある。ある特定の仕事になる（スキルを必要としない場所）
行政、企業が共に協力しないと解決していかない、企業としては採用の差別をしていかない、大切な労働力だから
- 学校側 日本人が外国にいるように、日本にいるブラジル人も（特に少年）グループ化しやすい、大きな問題になる前に共生、コミュニケーションをはかる必要がある。
- 学校側 生徒よりも親の生活習慣が大きく違うので、親の理解が得られにくい
- 意見 3 大きな波が来る、その対応をしっかりと考えていかないと
- 意見 4 個々の対応ではなく、行政として対応策をつくり上げていく必要がある。混乱してしまっただけでは遅い、サービスを受けることはできるが、義務が伴わないのでは・・・

この地域としては、逃れられない大きな問題について、熱のこもった議論がなされました。

会議のまとめ

今年度最後の会であったので「学校経営・学習指導・生徒指導・進路指導・特別活動」の外部評価をもとに会を進めていただいた。特に「開かれた学校」「地域連携」「工業高校の特色」に話題が集中した。

学校経営では、HPの更新を行事ごとに行うことや可児市主催行事への積極的な参加で地域連携を深めたことに評価を頂いた。

学習指導や生徒指導では、規律ある授業実践や規範意識の高揚へ向けて今後も努力して欲しい旨が語られた。特に「あいさつ運動」は可児市スローガン「あいさつが誇れるまちづくり」地域ぐるみで取り組む青少年育成運動の一貫でもあり、本校としても懸垂幕を利用したりして継続して実施していくこととした。

進路指導面では、学校全体で取り組んでいる資格取得や課題研究などの内容が企業側へ良く伝わるよにすることも大切とアドバイスを頂いた。

本校のよさ、授業内容や工業高校の取組についていろいろな機会をとおして積極的にアピールしていくよう提言が頂けた。

